

次に、9番議員の一般質問を許します。9番須藤正人君。

○9番（須藤正人君） 職員以外の傍聴者の皆様、今日は本当にご苦勞様でございました。一生懸命、一般質問をさせていただきます。

御所の台エリアの再構築構想についてお伺いをいたします。

この構想は、前町長が発案した構想であります。国際航業からプランをいただいて、そしてこの事業を進めていこうということでやってきましたが、まあこの事業は交流人口を増やして、そして八峰町の観光振興に繋げていこうというような事業であります。

昨年の7月に、この国際航業で出した概算を含めた説明がありました。ハタハタ館の改修に1億6,000万円、外壁工事ですね。そして既存の施設の改修に、これもまた1億6,000万円。委託料に6,400万円。道の駅の新設に1億1,600万円。5億円のお金がかかるんですね。いや、これからやろうとすればもっとかかるでしょう。七、八億円かかるのではないかというふうに言われております。この八峰町の財源の中で、このお金を予算を立ててですね、この事業を進めていくというのは、もう失敗は許されない、大変先行きが厳しい、そういう事業であります。

令和七、八年度をかけて、このプランを自前で作成するというようになっておりますが、令和八年度の施政方針の中で、町長は、このことに対しては一切触れていないんですね。この事業をこういう過程でプランを立てて進めていくということが一切ありませんでした。それで令和八年度中にはこの構想をまとめると言っているんですね。果たしてその構想が、この状態の中でできるのか。知見を求めるコンサルタントの予算もない。ワークショップの策定委員会の予算も入っておりません。入っていないから予算説明でもないわけです。どうするんですかね。

今、笠原議員のハタハタ館の問題がございました。大変な経営危機に面しております。私はこの構想を進めるのであれば、やはりハタハタ館が核になるのではないかというふうに思っております。ハタハタ館が核になって、そしてこの周辺にですね、いろんな施設を、民間の力を活用しながらいろんな施設を設けていく。そしてにぎわいを醸成していくというような、そういう事業であると思いますが、今のこのハタハタ館の問題を考えると、到底核とはなれない、そういう状態が続いております。

私は町長に言いたいんです。このまま進めて、この大きなお金をかけてですね進んでいっても、やがては旧サンタランドのように、岩崎村のサンタランドのようになってしまう。椿山のようになくなってしまわないか。そうなるのではないか、非常に危機感を持っております。はっきり言って、私はこの事業はやめた方がいい。ここで一旦立ち止まってですね、社会情勢、人口の動向、そして八峰町の財政、そういうものを考えていながら、まあ将来そういうものがよくなった時にですね、もう一回プランを立ててやっていく。今このまま進んでいってもですね、私は絶対失敗する。人は集まらない。そして民間もですね、この事業には参入しない。そう思っております。

2月にワークショップを開催しております。町長はその中で、ようやくスタートすることができたと言っているんです。果たしてスタートしてますかね。1年経ってもスタートはしてないと思います。そしてこのワークショップ、まだその昨年の2月に開催したきり2回目も開催しておりません。本当に町長がこの事業に対してやる気があるのかどうか見えないんです。どうかこの事業をですね、もう一回立ち止まって、そして考え直してですね、いただきたい、それが私の思いであります。大きなお金がかかります。八峰町の財政にとっては大変な負担になります。どうか

もう一度考えてほしいというのが私の考え方であります。町長のご意見をお伺いします。

終わります。

○議長（皆川鉄也君） ただいまの9番議員の一般質問に対し、当局の答弁を求めます。堀内町長。

○町長（堀内満也君） 須藤議員のご質問にお答えいたします。

御所の台エリア再構築構想についてであります。

本構想は、令和5年6月、ハタハタ館やあきた白神駅、オートキャンプ場等が整備されている、御所の台地区の複合観光エリアの再構築を目指すために策定されたものであります。

当初は、舵取り役となる民間事業者の参入を促し、その事業者よりエリア全体の詳細プランが作成されることを期待しておりましたが、令和6年以降、複数の事業者と意見交換や現場視察等を行ったものの、事業者から合意に至るような提案がなかったため、昨年7月の議員懇談会でもお示ししたとおり、現在は町単独でも実施できるものから、順次取り組みを進めているところであります。

また、直営版・未来ビジョン策定にあたり、「道の駅の移転に係る経費試算に関すること」や「御所の台オートキャンプ場の改修に関すること」、「ハタハタ館の飲食部門の強化に関すること」など、6項目を早期に整理する優先事項として掲げており、その中には、本構想の実現には欠かせない白神山地の活用に関連した取り組みについても明記しております。

町では、このうち、4項目については今年度から事業に着手しており、観光庁の地域観光魅力向上事業等を活用した「新メニューの開発」や「ツアー商品の造成・販売」、県の森林環境整備事業を活用した「散策路の整備」等に取り組んでおり、新年度においても関係予算の一部を予算計上しております。

また、昨年2月には、地域資源を活用したまちづくりに定評のある株式会社チームネットの甲斐徹郎氏を講師に招き、「御所の台をエントランスとしたまちづくり」をテーマにしたワークショップを開催し、商工会や地元事業者、住民の代表者など、多様な関係者が一堂に会し、本構想のあり方について意見交換等を行ったところであります。

しかしながら、民間事業者参入の見通しが立っていないことや、費用対効果を勘案した場合の道の駅移転の是非など、本構想の実現に向けては様々な課題があります。

今後、町といたしましては、当町沖の洋上風力発電事業者やその関連会社、首都圏等で開催される企業誘致懇談会等を通じて、本構想に賛同し、連携して取り組んでいただける民間事業者の確保に努めるとともに、総務省のマネジメント事業等を活用し、観光地の再開発等に精通した専門家の招聘等についても検討を進めてまいります。

また、優先事項については、令和8年度は、留山散策路の整備が最終年となるほか、アウトドアエリアの整備についても、現在、国事業の申請を予定しており、詳細については、採択後に改めて事業提案したいと考えております。

さらに、今年9月には、アウトドアエリア周辺を会場に、秋田県、青森県、深浦町、モンベルとの官民連携事業となる、白神山地の魅力を活用したアクティビティ体験で発信する「SEA TO SUMMIT」が予定されており、本企画を通じて同エリアのソフト面での活用についても検討を進めてまいります。

加えて、本構想に関する話し合いの中で再三議論されている道の駅はちもりの移転については、

令和5年6月時点で移転にかかる費用が約5億円と試算されており、町の財政状況を踏まえると、資金調達に一定の目処がついてから進めるべき案件であると考えております。

いずれにしましても、本構想の全体像を描くにはもう少し時間を要するものと考えておりますが、引き続き、北東北を代表する観光拠点を目指し、私自身、アンテナを高く張りつつ、各方面の関係者に働きかけながら事業を進めてまいります。

なお、未来ビジョンの策定については、現在、優先事項について順次取り組みを進めており、令和8年度中には、実行性・実現性の高い短中期的な計画として取りまとめたいと考えております。

以上であります。

○議長（皆川鉄也君） 9番議員、再質問ありませんか。9番須藤正人君。

○9番（須藤正人君） 国際航業で出した概算金、これは5億円かかる。そしてまた基本的なこの構想、基本的なものだけやってもですね5億円かかる。5億円近くかかるんですね。ほとんど5億円。だからそういうハードな事業をやって5億円。そしてソフトとか、まあハードになりますかね、散策路を造る、そういうものを整備してもですね5億円かかるという概算が出てるんですよ。やっぱり大きなお金がかかっていくんですね。そして民間の活力を活用するということも、今の時点ではままならない。そうなるそうですね、やはりこれはもう今言ったように基本的な部分だけを少しずつやっていくと、そして例えば建設、建物ですね、そういうものはもうやめてですね、ハタハタ館の外壁の改修もやめて、既存の、ハタハタ館の内部の既存の整備もやめて、そういうふうな形にはできないんですかね。

まあ今、トイレの道の駅の新設ももう少し考えてみたいということがありました。前には配置の問題もあるから、道の駅だけは持ってこれないというようなことも町長は言っておりました。これはですね、やはりそういうお金のかかるハードの部分をやっぴりもう少し時間をかけてみると。そして、その今年度中に作るプランもですね、やはりそういうものを抜いた形のプラン、そういうものを作っていただきたいと思うんです。町長どう思いますか。

○議長（皆川鉄也君） ただいまの9番議員の再質問に対し、答弁を求めます。堀内町長。

○町長（堀内満也君） 議員ご指摘のとおり、町の財政状況も非常に厳しい状況でございますし、そしてまたご指摘のとおり、道の駅の移転だけでも相当な額がかかるところでございます。いろいろな国の補助だったり、県からの支援なんかを受けながらですね、そういった町の持ち出しはなるべく少なくしようというふうにしても、それでも相当な額がかかることは間違いございません。そしてまた我々が進めておりました各民間事業者と協力につきましても、先ほど答弁したとおりですね、なかなか進んでいないという状況を踏まえますと、我々がイメージしたものはなかなかこうすぐにできるという状況にはございませんけれども、まずは今、町の財源を少なくてもですね、少ない額でありますけれども、それを少しでも活用しながら、できる範囲のことをやっぴりいこうということで、この町直営版のビジョンを作ることとしていただいております。

先ほど答弁で申し上げましたとおり、その一部につきましては既に今年度進めているところでございますし、新年度はですね大きな予算はつけていない状況ではありますけれども、今、国の方の事業にですね手を挙げて、採択された暁にはですね改めて議員の皆様にしつかりと内容を説明したいというふうに考えているところでございます。

以上です。

○議長（皆川鉄也君） ほかに再質問ございませんか。9番須藤正人君。

○9番（須藤正人君） 国際航業のこのプランを我々に説明した時ですね、もう財源は起債と一般財源、これしかないんだと、補助金はないと、ゼロになってますね。そういう状態なんです。全部が町の負担になってくるわけですね。そうなる時ですね、今、町長が話したように、やはり今後の八峰町の財政を考えた時にですね非常に厳しいものになってくるというふうに考えるわけです。ですから、もういろんなものはやめてほしいんですよ。やめてほしい、今の段階では。進んでほしくない。このプランをですね今年度中に、この再構想構想を、プランを立てる時にですね、やはり今の財源で、八峰町の財源でできる、本当のできるものだけをですね進んでいって、大きなプランというのは私は作る必要がないのではないかと。

道の駅もですね新設するのではなくて、もう少し我慢してもいいような気がします。そして人口の動向とか社会情勢、八峰町のもちろん予算、それを協議してですね、このプランを立てていくと、そういう形に持って行ってほしい。でないと私は、ここをですね思い切り開発してもですね、お金をかけ開発しても、到底人が集まってくると思えない。どうでしょう。

○議長（皆川鉄也君） ただいまの9番議員の再質問に対し、答弁を求めます。堀内町長。

○町長（堀内満也君） 先ほど来、議員の方から出ております国際航業の成果品、あれは確かゾーニングをしっかりと作らせていただきました。1,000万円ほどかかった事業でございますけれども、私、それを全て諦めたわけではなくて、その中でも町で今できる部分をやっというところで、今、この町版のビジョンを作っているところでございます。国際航業で作ったゾーニング、あれを全て実現するとなると、やはり冒頭申し上げましたとおり、民間事業者の資金力が非常に不可欠でございます。現状ではそういった協力事業者が現時点にはおりませんので、まずはですね、先ほど申し上げましたとおり町でできることを少しずつ進めながら、まあその進めていく上でですね新たに民間事業者の協力が得られるようなタイミングがあればですね、改めてゾーニングが実現できるような取り組みをしっかりと進めていきたいなと思っております。

現時点については、議員おっしゃるとおり、そういった事業者がおりませんので、繰り返しになりますけれども、町でできることを少しずつ進めていこうということでございます。

以上です。

○議長（皆川鉄也君） 9番議員、再質問ございませんか。9番須藤正人君。

○9番（須藤正人君） まあ令和8年度中、新年度中に、このプランをですね策定するということがあります。そして、新年度中ですから来年の3月いっぱいまであるわけですが、その中でですねプランをしっかりと、今現在できる、なり得るものをですねプランを立てて我々に説明をしてほしい、そう思います。

○議長（皆川鉄也君） 答弁必要ですか。

○9番（須藤正人君） いいです。

○議長（皆川鉄也君） これで9番議員の一般質問を終了いたします。